



讀賣新聞

C O R P O R A T E G U I D E



グループ本社 会長・主筆メッセージ

読売新聞が創刊された1874年（明治7年）は、江戸時代が終わって日本が近代国家の歩みを始めたばかりの時代でした。

文字を読めない人も多く、読みやすく親しみやすい新聞を作るにはどうしたらよいか、子安峻ら創業者たちが議論を交わして決めたのが、読みながら売る、という瓦版のイメージをそのまま生かした「読売新聞」の題号でした。

記事にはルビを振り、また紙面作りも、日々の出来事の報道だけでなく、人生相談や連載小説など、生活情報や娯楽のニーズに応える工夫を凝らしました。

そうした創意工夫の精神は、その後のラジオの番組表（のちにはテレビ番組表）の創設、また近年は高齢化社会に対応する活字の拡大などにも生かされています。関東大震災と東京大空襲による、二度の社屋焼失という危機も乗り越えて、読売新聞が150年もの長い歳月にわたって発展してこられたのも、その原動力となったのは、読者のために、という創意工夫の精神だったといえるでしょう。

紙面だけでなく、世界初の駅伝競走、プロ野球・巨人軍の創設やベーブ・ルースら米大リーグの招待など、スポーツ、文化、エンターテインメントといった、今日にまで受け継がれている各種の事業展開も、創意工夫の一環です。

新聞の役割は、事実の報道だけでなく、新聞社としての意見を表明する言論活動にもあります。1887年（明治20年）には、のちに早稲田大学総長となる若き高田早苗が主筆に就任し、社説の欄を創設して、今日の「社論の読売」の基礎を築きました。

読売新聞は、戦後の混乱期にソ連などの影響を受けた労働争議が起きました。この苦い経験を機に、当時の社長・馬場恒吾は自ら筆をとり、公平と友愛、自由と民主主義、平和の擁護を社是に掲げる「読売信条」を確定しました。

この理念を踏まえ、2000年1月1日には、渡辺恒雄社長・主筆の提唱で、自由主義、人間主義、国際主義、責任ある言論などを通じて読者の信頼に応える、という現在の読売信条が制定され、これが読売新聞の報道・言論の基盤となっています。

デジタル社会の到来で、だれもが自由に情報を発信できる時代になりました。それ自体は喜ばしいことですが、反面、無責任な虚偽情報、誹謗中傷などが横行し、人を傷つけたり、犯罪につながったりする事案も多発しています。「信頼できる報道と言論」が、これまで以上に求められる時代でもあります。読売新聞の役割は依然にも増して重くなったと感じています。

デジタル優位の風潮で発行部数が減り、どの新聞社も経営が苦しいことになりました。しかし読売新聞は、スポーツ、文化、芸能や、企業向けの新しい経済情報媒体の開発など、多種多様な新しいビジネス展開で本業の新聞発行を支えるという「新聞社を超える新聞社」の理念を、中堅・若手社員の提案に基づいて「行動指針」に掲げ、大胆な取り組みを進めています。創業の精神がいまも各職場に元気に息づいていることを心強く感じています。

読売新聞グループ本社
代表取締役会長・主筆・
国際担当(The Japan News主筆)

読売新聞東京本社
取締役

老川 祥一



グループ本社 社長・主筆代理メッセージ

明治の初め、30人足らずの小さな新聞社が生まれました。新聞と言えば、漢文調の新聞しかなかった時代に、ですます調、ふりがな付きの新聞として読売新聞は創刊されました。

当時の日本人の識字率は30%程度だったそうです。新聞を読むのは、一部の知識人に限られていました。そのような黎明の時代に、読売新聞は、難しい新聞から取り残されていた庶民に目を向け、読み書きに不慣れな人々に知識と情報を届けることで、開明の社会の実現を読者とともにめざしたのです。

その試みは成功しました。読売新聞は創刊2年目にして全国1位の発行部数となり、その後も着実に読者を増やしました。新聞が普及することにより、ものを読む習慣が広がり、人々は日々、黙読するようになりました。黙読は個人が自分の内面と向き合う時間を作り、日本人の近代的自我が育っていきました。

時代が移って、テクノロジーの進展により、だれもが情報を発信できる社会になりました。メディアは多元化し、世の中には膨大な量の情報が行き交っています。しかし、人々が情報の摂取に使える時間には限りがあることから、多元化したメディアはユーザーの時間を奪い合う状況になっています。

ユーザーの関心を引くには刺激の強いコンテンツが有利です。ソーシャルメディアは刺激の競争の空間となり、その結果、フェイクニュースや陰謀論が横行し、社会の分断をもたらす弊害も生じています。

「情報が過剰になると、人は注意力を奪われる」と言ったのは、ノーベル経済学賞を受賞したハーバート・サイモンです。人々が過剰な情報に注意力を奪われると、真実を軽視するポスト・トゥルースへ流されやすくなります。サイモンは、インターネットが普及し始めた1990年代半ばに、「大量の情報を処理するシステムが必要なわけではない。人々を注意力の分散から守る知的な情報濾過システムが必要だ」と指摘していました。

情報過剰の時代に求められるのは、情報の「濾過装置」です。読売新聞は、正確で真に役に立つ情報、公正な言論を提供する質の高い濾過装置であることを自らの役割と任じています。

私たちの活動は、報道・言論だけにとどまりません。かつて読売巨人軍を創設し、日本初の民間テレビ局・日本テレビを設立し、さらに傘下に読売日本交響楽団、中央公論新社、よみうりランドなどを抱え、スポーツ・文化・エンターテインメントをもう一つの本業として展開してきました。今後も、報道を通じて築いた信頼を軸に、公共の利益に資するさまざまな事業に取り組んでいく所存です。

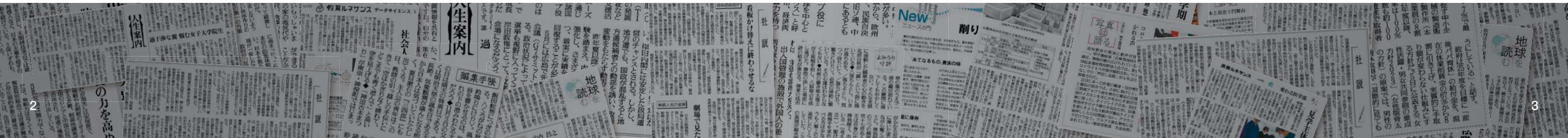
約150年前、読売新聞の創刊号は「此新^{この}ぶん紙は為になる事柄を誰にでも分るやうに書いてだす旨趣でござります」と記しました。読みやすいメディアがなく、人々が情報から疎外されていた黎明期から、情報が増え過ぎて、人々が真実を見分けにくくなった現代へ、時代は大きく変わりましたが、読売新聞の創刊の志は変わりません。

読売新聞グループは、これからも日本を代表する総合メディアグループとして、また人々の心を豊かにする企業集団として、皆さまとともに考え、伝え、歩んでまいります。

読売新聞グループ本社
代表取締役社長・主筆代理・
販売担当

読売新聞東京本社
代表取締役会長

山口 寿一





Policy 企業理念

読売新聞は1874年の創刊以来、正確で迅速な報道と、中庸で責任ある社説で民主主義の向上に貢献してきました。読売新聞社の企業理念や報道姿勢などを紹介します。



読売信条

読売信条は、読売新聞の社論の基礎となる考えを示し、報道・言論活動の進むべき方向を読者の皆様に約束するものです。終戦後の1946年9月、「真実・公平・友愛」「左右の独裁思想と戦う」などの4項目で定められました。

2000年1月1日、53年ぶりに一新されました。自由、民主主義、平和などの基本理念は引き続き堅持すると同時に、「自由」は「責任」と一体であることの認識や、人権尊重の「人間主義」、世界の平和と繁栄に貢献する「国際主義」などの理念を、新たに掲げることが簡潔に表現されました。

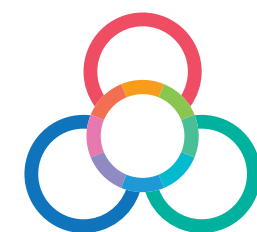
結びの「読者の信頼にこたえる」の一文は、デジタル化の到来を見据えたものです。誰もが意見や情報を発信できるデジタル時代における新聞の重要な使命は、記事に対する「信頼性」です。これは、読売行動指針の基盤にも据えられています。

読売信条は、毎年元旦の紙面に掲載されています。

読売新聞は
責任ある自由を追求する。
個人の尊厳と基本的人権に基づく人間主義をめざす。
国際主義に立ち、日本と世界の平和繁栄に貢献する。
真実を追求する公正な報道、勇気と責任ある言論により、読者の信頼にこたえる。
(2000年1月1日制定)

読売行動指針

2024年の創刊150周年を機に、読売新聞グループで働く全ての人の羅針盤となる「読売行動指針」を策定しました。ネット社会の発展で真偽不明の情報が氾濫する中、真実を伝える報道はもとより、事業全般を通じて民主主義の発展に寄与するという読売新聞の存在意義を再確認するのが狙いです。



読売行動指針
ロゴマーク

読売行動指針

私たちは「新聞社を超える新聞社」を目指す。
変わらず読者の信頼にこたえ、これまでにない価値を創造する。
道をひらくのは日々の一歩だ。

- ・挑戦を楽しもう。好奇心は推進力になる
- ・謙虚な心を持とう。他者への敬意は視野を広げる
- ・働き方の多様性を認め合おう。公私の調和は活力を生む
- ・今の自分を超えていこう。その成長は社会のためになる
- ・力を結集しよう。つながりは不可能を可能にする
- ・誠実に向き合おう。一つ一つの積み重ねが信頼を築く

2024年1月1日

「新聞社を超える新聞社」へ決意

2024年11月の創刊150周年に向けて策定した「読売行動指針」は、読売新聞グループ各社で働く一人ひとりが大切にしたい心がけを記したものです。

読売新聞には、自由主義、人間主義、国際主義に基づき、公正な報道と責任ある言論への決意を示した「読売信条」があります。行動指針では、この基本理念を踏まえ、次世代が希望を持てるよう、心に留めておきたい「信頼」「挑戦」「謙虚」などの価値観を文章化しました。東京、大阪、西部3本社の若手・中堅14人が策定を担いました。

「新聞社を超える新聞社」は、目指すべき未来像です。民主主義の発展に寄与する公益性を維持し、今後も社会的責任を果たす覚悟と、従来の新聞社像にとらわれずに挑んでいく決意を表しました。

未来像の実現には、まずは挑戦の精神が欠かせないことを明示し、他者の意見に耳を傾け、謙虚な姿勢で学び続ける意志も示しました。公私が調和した働き方の推進は、持続可能で活力ある職場を作るためです。

自らを高め、社内外で連携を強めることが困難を乗り越える力となるとの考えも表現しています。こうした行動の蓄積が、グループの根幹である信頼を醸成すると結びました。

行動指針は、激しく変化する時代の中で読売新聞グループが使命を果たし続けるための羅針盤です。私たちは、ここから新たな一歩を踏み出すことを誓います。



World Baseball Classic trademarks and copyrights are used with permission of World Baseball Classic, Inc.



読売新聞

日本最大の全国紙

読売新聞は日本最大の発行部数を有する全国紙です。創刊は1874年11月で、150年の歴史がある新聞です。

読売新聞の特徴

正確な報道と明快な主張

読売新聞の特徴は、信頼される正確な報道と明快な主張にあります。数々のスクープで国民の「知る権利」に応え、「勇気と責任ある言論」を旨とする社説や、現実的で説得力のある提言報道で社会を動かしてきました。

分野別に整理された紙面

読売新聞はニュースを深く、わかりやすくお伝えしています。紙面は政治、経済、国際、社会、スポーツなど分野別に整理され、その日の動きが立体的に把握できます。徹底した取材に裏打ちされた解説記事も豊富です。

暮らしに生かせる情報

医療、社会保障、教育、文化など、暮らしに生かせる情報もお伝えしています。また、少子高齢社会の急激な進展を見据えて医療、社会保障、教育の各分野に取材専門部署を置き、読者のニーズに合った紙面をお届けしています。

デジタルを活用した速報

紙の新聞とデジタルを一体化させてサービスを提供する「新聞withデジタル」という方針のもと、読売新聞オンライン（YOL）を通じて、速報にも力を入れています。読売新聞購読者は、登録すれば、毎月の新聞購読料金に追加料金なしでYOLの全ての記事を読むことができます。

報道姿勢

読売新聞社には、確かな情報を届ける使命と責任があると考えています。信頼できるメディアであり続けるための取り組みを紹介します。

記者行動規範

読売新聞記者行動規範は、読売新聞記者が日常の取材・報道活動を行うにあたり、実践すべき職業倫理を定めています。

紙面審査委員会

紙面審査委員会は、読売新聞の紙面内容を一層充実させるため、編集局から独立した立場で、取材・編集現場に対して助言や情報発信をしています。

記者塾

記者教育実行委員会（記者塾）を編集局に設置し、新人記者をはじめとする若手からベテランまで、経験年数や担当職務に応じた段階的、継続的な記者教育を行っています。

適正報道委員会

より正確で信頼される紙面づくりを目指し、2014年12月、編集局に適正報道委員会を設置しました。調査報道をはじめとするスクープや社会的に重要な記事の掲載にあたり、内容が適切かどうかを複数のベテラン記者が第三者的立場から事前にチェックする組織です。

お客さまセンター

お客さまセンターでは、日々の紙面に対する読者の声をくみ取っています。問い合わせや意見、情報提供への対応は年中無休です。貴重な情報提供や重要な指摘・要望などは、すぐに取材部門などの担当部署に伝え、紙面制作に役立てさせていただいています。

スクープ報道

読売新聞は、数々のスクープを放ち、社会に問題提起してきました。スクープ報道の実績を紹介します。

「五輪汚職事件」を巡る一連のスクープ(2022年)

東京五輪・パラリンピック大会組織委員会の元理事と、大会スポンサーだった紳士服大手「AOKIホールディングス」の間で、不透明な資金のやり取りがあり、東京地検特捜部が捜査していることを、2022年7月20日朝刊で報じました。取材班は22年度新聞協会賞を受賞しました。

「海外臓器売買・あっせん」を巡る一連のスクープ(2022～23年)

NPO法人が仲介した中央アジア・キルギスでの生体腎移植で、腎臓提供者(ドナー)のウクライナ人女性に1万5000ドル(約200万円=当時)近くが関係者を通じて支払われたことを、2022年8月7日朝刊で報じました。報道をきっかけに、警視庁が臓器移植法違反(無許可あっせん)容疑でNPOを摘発し、国内のドナー不足解消に向けた対策も進みました。取材班は23年度新聞協会賞を受賞しました。

大型連載企画

読売新聞紙面では、様々な大型連載企画を掲載しています。

情報偏食 ゆがむ認知(2023年)

インターネットが普及し、SNSが発展した「情報過多」の時代。デジタル空間で、興味のある情報ばかりに接していると、認知がゆがみ、考えが偏ってしまいます。そんな問題意識のもと、2023年2月から始まった連載が「情報偏食 ゆがむ認知」です。人々の関心を奪いあう「アテンション・エコノミー」、好みの情報ばかりに包まれる「フィルターバブル」、偏った考えが増幅される「エコーチェンバー」――。デジタルの負の側面を取材していくと、偏った情報で心身の健康を失った若者や、社会を分断され、民主主義が脅かされた国内外の事例に行きつきました。インターネットの発展で真偽不明の情報が氾濫する中、読売新聞は真実を伝える報道を続けます。

世界秩序の行方(2023年)

米中対立やロシアによるウクライナ侵略で混迷を深める世界。ポスト冷戦構造は崩壊し、米国主導の秩序は大きく揺らいでいます。民主主義国と権威主義国、その間で揺れる国々――。世界の対立や分断が続く中、これからの秩序はどうなるのか。日本の戦略はどうあるべきか。世界の行方を多角的にリポートした大型連載企画です。



社説 ～30年後の検証にも堪える主張

読売新聞は、政治、経済、社会問題などの国内外の重要なニュースに対し、「社説」欄でその主張を明確にしています。社説は、社論を統括する主筆の下に置かれた論説委員会が日々、徹底した討論で論調を決めています。論説委員会は、論説委員長、政治、経済、社会、国際、科学などの編集局各部出身の練達の記者たちで構成されます。

社説は、「勇気と責任ある言論」を掲げる「読売信条」を基盤にしています。世論におもねることなく、「30年後の検証にも堪える」ことを基本姿勢として、主張を練り上げています。

1面コラム

読売新聞では、筆力の優れたベテラン記者たちがコラムを書いています。朝刊1面の「編集手帳」は、内外のニュースから肩の凝らない暮らしの話題まで多彩なテーマを自在に料理し、世相を約460文字で活写するコラムです。1949年に創設されました。「朝刊は、まず編集手帳から読む」という読者も少なくありません。夕刊1面の「よみうり寸評」も、社会の「今」を切り取り、読者に問いかけるコラムです。1949年11月の夕刊復活と同時に創設されました。文字数は朝刊の「編集手帳」よりわずかに少ない約420文字。直近のニュースを精査して旬の話題を取り上げます。



提言報道

読売新聞は1994年11月に憲法改正試案を発表して以来、安全保障、行政改革、経済政策、教育、税制、医療など、国の将来像にかかわる多くのテーマについて提言を行ってきました。提言報道により、言論機関としての新たな境地を開くとともに、時代の羅針盤としての役割を果たしてきたと自負しています。



連載小説

読売新聞は、実力派や気鋭の作家の書き下ろし小説を朝夕刊で連載しています。

明治期は、言文一致の先駆的な作品とされた山田美妙の「武蔵野」を連載するなど文学新聞として名をはせ、尾崎紅葉の「金色夜叉」も熱狂的な人気を集めました。昭和期には吉川英治「太閤記」や松本清張「砂の器」などの歴史的名作を連載。近年も、ベストセラーとなった吉田修一さんの「怒り」や松浦寿輝さんの「川の光」、川上未映子さんの「黄色い家」（読売文学賞）など、文学性の高い作品を生み出しています。連載中の小説は、読売新聞オンラインにも公開中です。



朝刊で連載中の多和田葉子さんの「研修生（プラクティカンティン）」と、夕刊で連載中の戌井昭人さんの「おにたろかっぱ」（2024年3月1日時点）

漫画

植田まさしさんの「コボちゃん」は、1982年に朝刊社会面で連載が始まりました。連載1万回に達した2010年6月14日には主人公・コボちゃんの妹・ミホちゃんが誕生し、一層にぎやかに。21年1月7日の掲載で通算1万3750回となり、一般全国紙の連載漫画として最多記録を達成しました。

夕刊社会面は、12年から唐沢なをきさんの「オフィス ケン太」を連載しています。IT企業で社員を癒やす柴犬のケン太が主人公です。

日曜版では13年から、そにしけんじさんの「猫ピッチャー」を連載中。プロ野球初の猫投手・ミー太郎が活躍します。



号外

朝夕刊の発行を待たずに、早く伝えるべき重大なニュースを臨時で発行する新聞です。新聞は通常、創刊からの号数が記載されていますが、それが無いので「号外」と呼ばれています。

号外は、大きな事件や事故、災害が起こったり、スポーツで日本人選手が大きな記録を残したりした時などに発行されます。号外は街頭で配布されます。



能登半島地震の被害を伝える特別号外（2024年1月2日）

多彩なメディア

読売中高生新聞

ニュースからエンタメまで、10代を応援する新聞

毎週金曜日発行の10代向け新聞です。ニュースからスポーツ、英語学習、書評、エンターテインメントに至るまで、30以上の多彩なコーナーを用意しています。注目ニュースは、イラスト・図表をふんだんに用い、家族で楽しめて学校の授業にも役立ちます。スマートフォン用の無料投稿アプリ「Yteen」では安全なネット環境での交流・議論の場を提供しています。タブロイド判24ページ、オールカラー。



THE JAPAN NEWS

日本と世界の動きを英語で読む 読売新聞の英字紙

読売新聞社が発行する日刊の英字新聞です。日本や世界の政治や外交、経済、社会について、読売新聞の英訳記事で理解を深めることができます。英語力の向上にもつながります。日本の伝統文化やエンタメ、食、観光など、在日・訪日外国人の方に役立つ情報も充実しています。



読売DoMo新聞

写真やイラスト満載、小学生から読める新聞

毎週木曜日発行の小学生向け新聞です。オールカラーの紙面には、たくさんのイラストやグラフ、写真が掲載され、お子さんの好奇心を刺激します。時事問題をテーマにした学習まんがや、最新の入試出題傾向を解説する学習面もあり、中学入試対策にもぴったりです。タブロイド判20ページ、オールカラー。



デジタルメディア

ニュースサイトをはじめ、新聞紙面をPC、スマホで読めるサービス、記事データベースなど、多彩なメニューをご用意しています。

読売新聞オンライン (YOL)



YOL 読売新聞 オンライン

<https://www.yomiuri.co.jp/>

読売新聞の月々の購読料金+0円でお使いいただける読者のためのデジタルサービスです。サイト、アプリでご利用いただけます。

新聞レイアウトそのままに表示する紙面ビューアーや、記事検索、スクラップなど、便利な機能も使えます。

「よみぽランド」では、様々なプレゼントに応募でき、アンケートに答えたりゲームで遊んだりするとポイントがたまります。会員でない方も、ニュースサイトとしてお使いいただけます。

ヨミドクター



yomiDr.
ヨミドクター

<https://yomidr.yomiuri.co.jp/>

医療・健康・介護に関する役立つ情報をお届けしています。

著名人の健康と元気の秘密をお聞きする連載「ウェルネスとーく」が人気です。データベース「医療大全」「病院の実力」は、読売新聞の読者会員なら無料で利用できます。また、月額220円（税込み）で、24時間電話医療相談サービス（保健同人フロンティア提供）が受けられます。

データベースサービス

年間約25万件のペースで増える読売新聞の記事を、インターネットで検索、閲覧できる有料サービスを提供しています。「ヨミダス」では創刊号から前日付の紙面まで、約1500万件以上の記事を収録しています。研究やビジネスに最適です。

<https://database.yomiuri.co.jp/>

掲示板「発言小町」



発言小町

<https://komachi.yomiuri.co.jp/>

1日に2000件近くの投稿が寄せられる人気掲示板です。

恋愛、子育て、仕事に関する相談から身近な疑問まで、多彩な話題が書き込まれています。NTTドコモの「スゴ得コンテンツ」でもお楽しみいただけます。1年間の投稿の中から一番心に残ったトピックスを選ぶ「発言小町大賞」を毎年実施しています。

美術展ナビ



美術展ナビ
Art Exhibition JAPAN

<https://artexhibition.jp/>

全国の美術展を検索できるポータルサイトです。キーワードやジャンルで検索できるほか、注目展の紹介、展覧会のレポートを掲載しています。コンテンツの利用や会員登録は無料。また、美術展ナビチケットアプリでは、スマホ1台でチケット購入から入場まで完結します。展覧会の図録やグッズを扱う美術展ナビオンラインストアとも連携しています。

記事配信 (法人向け)

政治・経済・社会はもちろんスポーツや文化まで、世の中の重要ニュースをいち早くお届けします。記事はヤフーなどのポータルサイトや各種ニュースアプリのほか、テレビ、ラジオ局のニュース番組向けにも配信しています。カーナビゲーションの液晶モニターや街頭ビジョン向けの文字ニュースも複数用意しています。

関連事業

読売新聞社のメディアに関連する事業や取り組みを紹介します。

調査研究本部

読売新聞の調査研究本部は、所属する主任研究員を中心に政治・経済・国際・社会等、広範な分野にわたる諸問題を調査・研究し、解決への道を広く提言しています。識者のオピニオンを届ける「読売クオターリ」の発行のほか、シンポジウム・講演会等の開催、論壇・国際社会での功績をたたえる表彰を手がけています。

出版事業

読売新聞社は、取材の蓄積を生かして書籍を発行しています。1946年創刊の「読売年鑑」は、それぞれの年の主な出来事、各種データ、人名録などを収めた総合年鑑です。「読売報道写真集」は、読売新聞紙面を飾ったニュース写真で1年間を振り返ります。このほか、「病院の実力」「中学受験ガイド」「GIANTS」「箱根駅伝ガイド」など、医療、教育、スポーツのムック本類も充実しています。

TV番組

読売新聞グループのテレビ局と一緒にお届けする番組です。

高校の社会歴史研究部を舞台に、近現代の歴史的な出来事をひもといていくミニドラマ「シャカレキ!〜社会歴史研究部〜」とBS日テレ、日本テレビ、読売新聞の3社がタッグを組んだ本格的な討論報道番組「深層NEWS」を放送しています。



シャカレキ!〜社会歴史研究部〜



「江崎博士受賞50年『戦後日本 知の発展』」をテーマに東京大学安田講堂で開かれた「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 次世代へのメッセージ」(2023年6月4日)



深層NEWS



Business 事業・ビジネス

読売新聞社が主催するスポーツ事業、文化・エンターテインメント事業、ビジネスに関する取り組みなどを紹介します。



読売日本交響楽団 ©読売

スポーツ

読売新聞社は、プロスポーツ興行や各種スポーツ大会の開催、スポーツで優れた功績を上げた選手や関係者への表彰を通して、スポーツの素晴らしさを伝える手助けをしています。

野球

読売巨人軍は1934年に創立された日本を代表するプロ野球球団です。東京ドームでのホームゲームの興行やプロモーションなどを行っています。

また、野球の世界一を決める国・地域別対抗戦「ワールド・ベースボール・クラシック（WBC）」の日本開催ラウンドや、大学野球の日本一を決める「全日本大学野球選手権大会」、全国で開催される少年野球大会など、様々な野球大会を主催・共催しています。



読売巨人軍の2024年シーズンユニホーム

インターハイ

高校生最大規模の総合スポーツ大会です。大会の共催や報道などを通して、高校生を応援しています。



札幌市で開催されたインターハイの総開会式(2023年7月)

スポーツの表彰事業

スポーツで優れた功績を上げた選手や団体をたたえる、読売新聞社の表彰事業です。

表彰	概要
日本スポーツ賞	その年のスポーツ界で最も活躍した選手、チームに贈られる賞です。
日本パラスポーツ賞	国内外のパラスポーツ競技会で優れた成績を収めた選手、チームに贈られる賞です。
沢村賞	プロ野球のそのシーズンで最も優れた先発完投型の投手に贈られる賞です。
プロ野球正力松太郎賞	その年のプロ野球の発展に大きく貢献した球界関係者に贈られる、球界で最も名誉ある賞です。

など

サッカー

読売新聞東京本社は、日本サッカー協会（JFA）とパートナー契約を結び、全世代のサッカー男女日本代表などを応援しています。また、U-12を対象としたサッカー大会「JFA全日本U-12サッカー選手権大会」も主催しています。



箱根駅伝

「箱根駅伝」の名称で親しまれている「東京箱根間往復大学駅伝競走」は、毎年1月2日と3日の2日間で開催され、お正月の風物詩として多くの国民から人気を博している駅伝競走大会です。

関東学生陸上競技連盟が主催し、学生が中心となって運営しています。読売新聞社は共催者として本大会をサポートしています。



100回大会の往路スタート（2024年1月）

文化・エンターテインメント

将棋・囲碁の公式戦の主催や、展覧会の開催などを通して、日本の文化振興や活性化に貢献しています。

展覧会

良質な展覧会を数多く開催し、国内外の文化を広く紹介しています。「バーンズ・コレクション展」（1994年）や、「ロンドン・ナショナル・ギャラリー展」（2020～21年）など、話題を呼ぶ展覧会をプロデュースしています。



「マティス 自由なフォルム」国立新美術館 2024年 展示風景
アンリ・マティス 《花と果実》 1952-53年 ニース市マティス美術館蔵
©Succession H. Matisse Photo:François Fernandez

世界らん展

らんを中心とした花や緑の普及を目的に開催する、世界最大級のらんの祭典です。展示やコンテスト、らんの販売などが行われます。



世界らん展2023―花と緑の祭典―
(2023年2月)

音楽・舞台

「読売日本交響楽団」は「読響」の愛称で親しまれるオーケストラで、1962年に発足しました。読売新聞社は1966年のビートルズ来日公演を主催するなど、幅広い分野の興行を手がけています。



読売日本交響楽団 ©読響

将棋・囲碁

いずれも国内最高位のタイトル戦である、将棋の「竜王戦」と囲碁の「棋聖戦」を主催しています。



読売書法展

古典を踏まえた伝統的な書を志向する国内最大規模の公募展です。

「漢字」「かな^{てんこく}」「篆刻」、漢字かな交じりの「調和体」の4部門で入賞者を選びます。



「第39回読売書法展」（2023年12月）

高円宮杯全日本中学校英語弁論大会

中学生を対象とした、国内最高峰の英語スピーチコンテストです。意見や主張を5分間でスピーチします。



高円宮杯第75回全日本中学校英語弁論大会決勝大会
(2023年11月)

文化・エンターテインメントの表彰事業

賞	内容
読売演劇大賞	優れた舞台作品や演劇人を表彰する賞です。5部門の最優秀賞や、グランプリにあたる大賞を決定します。
読売文学賞	小説や詩歌俳句などの全6部門で、前年の最も優れた作品を選ぶ、国内唯一の総合文学賞です。
読売あをによし賞	文化財の保存、あるいは伝統文化の継承に取り組んでいる個人・団体を顕彰する賞です。
読売・吉野作造賞	政治、経済、社会などの分野で、前年中に刊行された優れた著作や論文を顕彰する賞です。
医療功労賞	山間部や離島など、厳しい環境のもとで長年、地域に密着した活動を続けてきた医療従事者を顕彰する賞です。
読売福祉文化賞	新しい時代にふさわしい福祉活動を実践している団体や個人を顕彰する賞です。
日本学生科学賞	中学生、高校生を対象にした国内最高峰の科学コンクールです。個人、共同で取り組んだ研究作品を募集しています。
全国小・中学校作文コンクール	小中学生を対象とした作文コンクールです。創作を含む自由なテーマで、広く募集しています。
読売書き初めコンクール	小中高校生を対象としたコンクールです。毎年秋に、自由なテーマで未発表の書き初め作品を募り、優秀作を表彰しています。
全国高等学校文芸コンクール	全国の高校生を対象とした、高校文芸で最大規模のコンクールです。小説や詩など7部門からなります。
よみうり写真大賞	プロ・アマ問わず、写真を愛する全ての人が参加できるフォトコンテストです。

など

ビジネス

組織	概要
YOMIURI BRAND STUDIO	読売新聞グループの強みを基盤に、企業や社会の課題を解決する組織です。
YOMIURI X-SOLUTIONS	新聞・出版物・テレビの3マス媒体を横断するデータマーケティングを実現します。
RETAIL AD CONSORTIUM	新聞の折り込みチラシとネット広告の最適化を目指す企業集団です。
 yomiuriONE	読売新聞社が保有する「読売ID」の属性に加え、読売新聞グループ各社が運営するサイトの閲覧履歴や第三者情報の推定属性のデータを蓄積したCDP（カスタマー・データ・プラットフォーム）です。
 idea market 読売新聞クラウドファンディング	読売新聞社が運営する購入型クラウドファンディングです。
 marie claire	世界30の国・地域で発行される、自立した女性のためのハイエンドなライフスタイルマガジン。毎月最終木曜日に全国主要都市の読売新聞朝刊に折り込まれています。

など



Group
グループ案内

読売新聞グループは、150年の歴史がある読売新聞を中心に、文化、スポーツ、レジャーなど様々な分野の有力会社を抱える「総合メディア集団」です。グループ会社や施設などを紹介します。



※イメージ

グループ概要

読売新聞グループの概要を紹介します。

新聞3本社

読売新聞は東京、大阪、福岡の全国3か所に本社を置いています。東京本社、大阪本社、西部本社はそれぞれ、報道部門（編集局）、ビジネスソリューション提案と広告制作を行う営業部門（ビジネス局）、新聞販売部門（販売局）、記事の入稿から印刷、発送までのシステム構築や運用などを担当する新聞制作部門（制作局）、展覧会やスポーツイベントなどの事業部門（事業局）、人事・総務や経理の部門（総務局）などをもち、報道に限らず幅広い業務を行っています（局の名称は本社によって一部異なります）。東京本社にはデジタルサービス部門（メディア局）も設置しています。

データで見る読売新聞

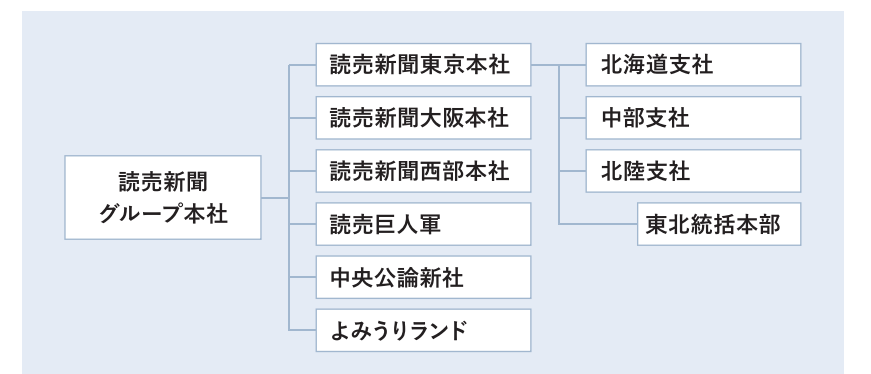
 国内取材拠点数 全 307 か所	本・支社 7 か所	総局・支局 51 か所	通信部 249 か所
 海外取材拠点数 総局・支局 27 か所	 印刷工場数 30 か所	 販売店数 ※ 約 6,600 店	
 読売新聞 朝刊発行部数 612万 6,366 部	 3本社の従業員数 4,318 人		

国内、海外の取材拠点や、読売新聞を印刷している工場の所在地は、会社案内サイトをご覧ください。
<https://info.yomiuri.co.jp/group/network.html>

※読売新聞の専売店と、他紙も扱う販売店の合計です。
3本社の従業員数は2023年4月現在、朝刊発行部数は同年11月現在、その他は2024年3月現在です。

基幹7社概要

読売新聞グループは、持ち株会社である読売新聞グループ本社の下、約140の多彩な会社・団体に構成されます。グループ本社の直下には、読売新聞東京本社、読売新聞大阪本社、読売新聞西部本社の「新聞3本社」と、読売巨人軍、中央公論新社、よみうりランドを置いています。読売新聞グループは、グループ本社を含むこの7社を「基幹7社」と位置づけています。



販売ネットワーク

読売新聞は、全国約6600の読売新聞販売店（読売センター=YC）で構成する戸別宅配網によって、支えられています。

YCとは

読売新聞販売店は、読売新聞社から届けられた新聞を配達し、読売新聞社の事業パートナーとして情報を届ける「最終ランナー」の役割を担っています。

他紙も扱う店舗を含めると、全国に約6600店あり、約5万人のスタッフが働いています。このうち読売新聞の専売店は約3100店で、YCと呼ばれています。

店内に託児所を設けたり、外部の託児所と提携したりして、女性が働きやすい環境づくりに努めているYCもあり、全スタッフの約4割は女性が占めています。



読売新聞の配達に向かうYCスタッフ

YCの主な仕事

配達

新聞を積んだトラックが販売店に到着したら、新聞の種類や数量を確認します。折り込みチラシを新聞にはさみ、配達区域ごとに仕分けをします。雨の日には専用の機械で新聞にポリ袋をかけます。自転車やバイクなどに新聞を積み込み、担当区域内的の読者に対し、毎朝決まった時間に新聞をお届けします。



新聞に折り込みチラシをはさむYCスタッフ

集金

読者を訪問し、購読料金を集金します。購読特典冊子なども併せて配布します。

営業

新聞購読などをお勧めするため、各ご家庭を訪問します。

エリアマネジメント

配達、集金、営業の仕事を通して、担当するエリアの顧客管理を行います。

地域貢献

YCのスタッフは、日頃の配達・集金業務などを通じて、地域の方々と様々な交流があります。そうした人とのつながりや経験を生かして、スポーツや文化活動などのイベントを企画したり、健康・福祉、環境整備などに力を入れた地域貢献活動を行ったりしています。

また一方では、人命救助のお役に立つことができた事例も数多くあります。全国のYCはボランティア団体「全国読売防犯協力会」（Y防協）を2004年に組織しており、不審者を発見した際の通報や高齢者の見守り、印刷物の配布や防犯セミナー後援などの啓発で地域防犯活動にも取り組んでいます。

主なグループ会社

読売新聞グループの主な会社・団体を紹介します。

業種	グループ会社
新聞・印刷・出版	報知新聞社、福島民友新聞社、スポーツ報知西部本社、旅行読売出版社、読売プリントメディア、青森読売プリントメディア、ミナト、読売大阪プリントメディア
販売・輸送	読売情報開発、読売IS、読売ハートサービス、よみうりコンピュータ、読売情報開発大阪、読宣、読売西部アイエス、読売ロジスティクス
広告	読売エージェンシー、読売アドセンター、読売連合広告社、読売エージェンシー大阪、読売広告西部
レジャー・サービス・不動産	読売旅行、読売ゴルフ、読売プラス、読売不動産、読売システック、大阪読売サービス、読売西部サービス
教育・文化・教養	学校法人 読売理工学院、公益財団法人 読売日本交響楽団、読売・日本テレビ文化センター、読売調査研究機構
福祉	社会福祉法人 読売光と愛の事業団、公益財団法人 正力厚生会、読売健康保険組合、大阪読売健康保険組合
テレビ局	日本テレビホールディングス、読売テレビ放送、BS日本、CS日本

グループの施設

商業施設、レジャー施設など、読売新聞グループの主な施設を紹介します。



よみうり大手町ホール



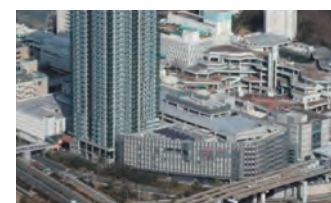
マロニエゲート銀座1～3



よみうりランド



読売会館



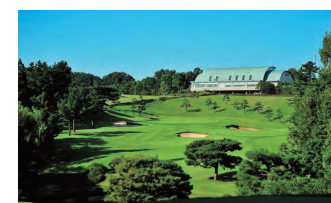
SENRITO よみうり



読売名古屋ビル



読売並木通りビル



東京よみうりカントリークラブ



よみうりカントリークラブ



よみうりランドケアセンター



よみうりランド花ハウス



TOKYO GIANTS TOWN
(東京ジャイアンツタウン)
※イメージ・2025年3月オープン予定



脱炭素プロジェクト

読売新聞社は気候変動対策を推進するため、「脱炭素プロジェクト」に取り組んでいます。「温室効果ガス削減の実践」「森林保護、リサイクル、新技術への取り組み」「報道・事業を通じた脱炭素推進」の3分野を中心に進めています。読売新聞社の取り組みを紹介します。

環境方針、脱炭素行動計画

基本理念

より良い地球環境を次世代に引き継いでいくことは人類共通の最も重要な責務です。読売新聞グループ本社、東京本社、大阪本社、西部本社は、この課題に対し、報道機関として記事発信等を通じて前向きに取り組んできました。今後も積極的に推進していきます。各本社は事業活動として、国内で新聞の編集、制作、販売等を行っていますが、その活動がもたらす環境への負荷を低減するため、基本方針に基づき、環境保全活動や気候変動対策を、組織を挙げて継続的に進め、「脱炭素社会」と持続可能な地球環境の実現に寄与します。

基本方針や、温室効果ガス削減の数値目標などを掲げた脱炭素行動計画、読売新聞社の取り組みは、会社案内サイトをご確認ください。

<https://info.yomiuri.co.jp/sustainability/datsutanso.html>

クローズド・ループ

読売新聞東京本社は2020年4月、東京都内の読者宅から回収した新聞古紙を国内製紙会社に直接販売し、資源を100%国内で循環させる「クローズド・ループ」システム（読売エコシェアリング）を始めました。

読売新聞販売店と古紙回収業者、古紙問屋の協力を得て、まず都内の一部で取り組みを始め、その後、対象エリアを首都圏の1都3県全体へ拡大しました。サプライチェーン上流に当たる製紙会社と共同で、新聞用紙のリサイクルを促進し、温室効果ガスの排出量削減に結びつく取り組みを進めています。



クローズド・ループ
(読売エコシェアリング)

植樹事業

読売新聞の用紙に含まれる古紙パルプを除く約30%は木材パルプに頼っています。「読売リサイクルネットワーク」は2013年、古紙回収の売り上げの一部で植樹活動を行う「読売の森」事業を始めました。

岩手県宮古市から始まった植樹事業は、YCで組織する連合読売会も取り組んでおり、現在は全国で展開しています。

植樹マップ



Sustainability サステナビリティ

読売新聞社は、気候変動対策「脱炭素プロジェクト」や、SDGsに関する活動を通して、環境に配慮した新聞制作・発行や配送を行っています。また、活字文化の振興や伝統文化の継承など、未来を見据えた活動を進めています。持続可能な社会に向けた、読売新聞社の取り組みをご紹介します。



文楽人形を演ずる人間国宝・桐竹勘十郎氏（富山県高岡市）



京都・知恩院所蔵の国宝「阿弥陀二十五菩薩来迎図（早来迎）」の修理（光影堂提供）



工芸と食のイベント（都内料亭「有楽川流木」）

環境への取り組み

読売新聞社の環境への取り組みを紹介します。

輸送の効率化

読売新聞グループ本社は2019年6月から、日本マクドナルド社と提携し、本社の新聞輸送トラックに、マクドナルドで使う食材などを混載して共同輸送を行っています。両社の輸送効率化とトラックの運行台数減による環境負荷低減が目的です。



トラックに積み込まれる食塩(奥)と新聞(手前)

太陽光パネルの設置

読売新聞の印刷工場では群馬工場(群馬県藤岡市)に2021年8月、清須工場(愛知県清須市)に2023年9月、太陽光発電システムを導入しました。工場の屋根にそれぞれ出力約500キロワット、約200キロワットの発電設備を設置し、発電した電力を新聞印刷などに活用しています。



清須工場の太陽光発電システム

Carbon Neutral Project

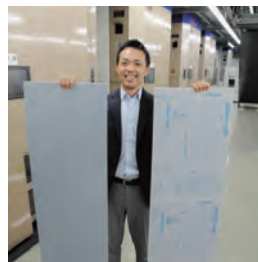
政府、自治体、有識者、企業、生活者とともに脱炭素社会の実現に向けた議論を深め、最新の取り組みを社会へ広く発信する「Carbon Neutral Project(カーボンニュートラルプロジェクト)」を展開しています。



東京都内で開かれた「ニッポンの未来フォーラム」

新しい印刷技術の開発

読売新聞東京本社制作局は、富士フイルムの協力により、現像液を使わない印刷技術の実用化に成功しました。廃液が出なくなることで、環境への負荷を減らしています。2015年度新聞協会賞技術部門を受賞しました。



現像液を使わずに製版した印刷用のアルミ版(左)と、従来のアルミ版

SDGs

教育、福祉など様々な分野で、SDGs(持続可能な開発目標)の達成に向け取り組んでいます。

読売新聞教育ネットワーク

読売新聞社が企業、大学、教育委員会、小中高校、教育関係団体に呼びかけて、2014年10月に創設した組織です。出前授業や教育イベントなどを企画する一方、参加企業や学校が行うユニークな教育事業や先駆的な授業などの取り組みを情報発信しています。

活字文化の推進

出版関連業界と協力して「活字文化推進会議」を発足させ、本や新聞などの活字文化を守り育てていく「21世紀活字文化プロジェクト」に取り組んでいます。東京本社に事務局を置き、全国各地でフォーラムや大学での公開講座、書評合戦「ビブリオバトル」などの活動を行っています。



企業による出前授業



全国高校ビブリオバトル決勝大会

多様性への取り組み

読売新聞社は育児休業取得を推進しており、2022年度の東京本社の取得率は女性100%、男性37.5%でした。

東京本社は日本の新聞社で初の事業所内保育所「よみかきの森保育園」を2014年に開設。生後57日から就学前までの子どもを保育しています。読売新聞社員に限らず、法人契約を結ぶ近隣企業の社員の子どもも受け入れています。

誰もがやりがいを持ちながら柔軟に働き、成果を出せる。そんな環境を目指しています。



よみかきの森保育園

伝統文化の継承と振興

伝統工芸や芸能、国宝・重要文化財など、日本の「伝統文化」を次世代に継承していくため、読売新聞社は様々な取り組みを進めています。

Action!伝統文化

読売新聞社は、様々な企業、団体、自治体および個人にも呼びかけて、日本の「伝統文化」を守る機運を高める運動に取り組みたいと考え、2023年6月に伝統文化振興プロジェクト「Action!伝統文化」をスタートしました。

本プロジェクトでは、鑑賞や体験、学びの機会を作り出すことで伝統文化に触れ、魅力の再発見につなげることを目指します。また、技の保存と継承、後継者の育成、道具や原材料の生産者支援を図るとともに、訪日外国人及び海外に情報発信していきます。



伝統文化



④工芸と食のイベント(都内料亭「有栖川清水」)
⑤文楽ワークショップを行う人形遣い・吉田勘彌氏



紡ぐプロジェクト

日本美を守り伝える「紡ぐプロジェクト—皇室の至宝・国宝プロジェクト—」は、皇室ゆかりの優品や、国宝・重要文化財など古くから守り伝えられてきた日本の美を、広く国内外へ、さらに千年先の未来へ伝えることを目的に、文化庁、宮内庁、読売新聞社が2018年11月から官民連携で取り組んでいるプロジェクトです。



日本美を守り伝える
TSUMUGU
紡ぐプロジェクト

「保存、修理、公開」のサイクル

保存	紡ぐプロジェクトが関わる展覧会や文化財修理の様子、日本文化の魅力を伝える記事を公式サイト「紡ぐ TSUMUGU: Japan Art & Culture」や読売新聞紙面、公式SNSなどで広く発信。高精細画像を用いた公式サイトの「紡ぐギャラリー (TSUMUGU Gallery)」では、美術品を拡大しながら解説も楽しむことができる新しい鑑賞体験を提供し、美術品のデジタル保存も進めています。
修理	日本の文化財は紙や木などの傷みやすい材料でできているため、50~100年に1度の修理が必要です。文化財の保存と活用を一体的に進めるため、多くの協賛企業からの支援や展覧会の収益の一部をもとに、貴重な文化財を後世に伝える修理事業を助成しています。
公開	紡ぐプロジェクトでは様々な特別展も開催しています。これまでに「工藝2020—自然と美のかたち—」「京の国宝—守り伝える日本のたから—」「日本美術をひも解く—皇室、美の玉手箱」などを開催しました。毎年開催する展覧会では、収益の一部を修理助成に充てます。

読売小史

明治

- 1874年(明治7年) 11月 2日 読売新聞を創刊^①
- 1897年(明治30年) 1月 1日 尾崎紅葉「金色夜叉」の連載開始^②

大正

- 1914年(大正3年) 4月 3日 「よみうり婦人附録」を新設
- 1917年(大正6年) 4月 27日 「東海道駅伝徒歩競走」を開催(駅伝競走の始まり)^③
- 1925年(大正14年) 11月 15日 「よみうりラヂオ版」を新設

昭和

- 1934年(昭和6年) 11月25日 夕刊を発行
- 1934年(昭和9年) 12月26日 巨人軍の前身「大日本東京野球倶楽部」発足^④
- 1936年(昭和11年) 7月25日 オリンピックを「五輪」と紙面で初めて表記
- 1946年(昭和21年) 7月 1日 読売新聞の題字を隷書体で表記
- 1946年(昭和21年) 9月 1日 読売信条を発表
- 1949年(昭和24年) 3月 1日 朝刊1面に「編集手帖」を常設化
- 1952年(昭和27年) 11月25日 「大阪読売」を発刊(全国紙への飛躍)
- 1954年(昭和29年) 3月16日 **スクープ記事** 第五福竜丸がビキニ水爆実験で被曝(菊池寛賞)
- 1955年(昭和30年) 4月 1日 英字新聞を創刊
- 1962年(昭和37年) 4月 1日 読売日本交響楽団を設立
- 1966年(昭和41年) 6月30日 ビートルズ日本初公演を主催
- 1971年(昭和46年) 6月30日 **スクープ記事** 22年前の弘前大教授夫人殺害事件で真犯人が名乗り(新聞協会賞、菊池寛賞)
- 1973年(昭和48年) 8月23日 **スクープ記事** 金大中事件に韓国公的機関員が介在(新聞協会賞)
- 1975年(昭和50年) 3月25日 中部読売を発刊
- 1977年(昭和52年) 2月 発行部数日本一を達成
- 1986年(昭和61年) 10月19日 東京本社の新聞制作が完全コンピューター化^⑤

平成

- 1991年(平成3年) 6月 4日 **スクープ記事** 雲仙・普賢岳噴火で火砕流(新聞協会賞)
- 1994年(平成6年) 5月 発行部数が1000万部を突破
- 1994年(平成6年) 11月 3日 読売憲法改正試案を発表(提言報道第1号)
- 1995年(平成7年) 1月 1日 **スクープ記事** 山梨県上九一色村(当時)でサリン残留物検出



- 1995年(平成7年) 6月16日 ニュースサイトを開設(デジタルサービスのスタート)
- 1998年(平成10年) 6月 6日 **スクープ記事** 妻以外の女性から卵子の提供を受け、国内初の体外受精(新聞協会賞)
- 1999年(平成11年) 2月 1日 中央公論新社が発足。読売新聞グループに
- 2000年(平成12年) 1月 1日 新しい「読売信条」を制定
- 2001年(平成13年) 5月10日 読売新聞記者行動規範を制定
- 2002年(平成14年) 10月17日 日本オリンピック委員会(JOC)オフィシャルパートナーに
- 2004年(平成16年) 7月 9日 全国読売防犯協会を設立
- 2006年(平成18年) 8月13日、15日 「昭和戦争」の責任について最終報告を公表
- 2008年(平成20年) 3月31日 「メガ文字」を導入。1ページ12段に
- 2009年(平成21年) 12月22日 **スクープ記事** 核密約文書、佐藤元首相邸に(新聞協会賞)^⑥
- 2011年(平成23年) 3月 3日 読売KODOMO新聞を創刊^⑦
- 2011年(平成23年) 7月21日 **スクープ記事** 東電OL殺害事件で、遺留物から別人DNA(新聞協会賞)
- 2011年(平成23年) 10月12日 読売KODOMO新聞が世界新聞・ニュース発行者協会(WAN-IFRA)の世界青少年読者賞(編集部門)の審査委員会栄誉賞を受賞
- 2014年(平成26年) 1月 6日 東京・大手町に新社屋「読売新聞ビル」が開業
- 2014年(平成26年) 6月10日 東京本社に初の女性役員が誕生
- 2014年(平成26年) 11月 7日 読売中高生新聞を創刊^⑧
- 2014年(平成26年) 11月14日 **スクープ記事** 群馬大病院で腹腔鏡手術後に8人死亡(新聞協会賞)^⑨
- 2015年(平成27年) 4月 9日 読売新聞の創刊からの号数が5万号に
- 2015年(平成27年) 9月 3日 読売中高生新聞が世界新聞・ニュース発行者協会(WAN-IFRA)の世界青少年読者賞(編集部門)の最高賞を受賞
- 2016年(平成28年) 1月 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会とオフィシャル新聞パートナー契約を締結
- 2019年(平成31年) 2月 1日 新デジタルサービス「読売新聞オンライン」スタート

令和

- 2020年(令和2年) 6月22日 新型コロナウイルス感染拡大を受け緊急提言を発表
- 2021年(令和3年) 3月21日 新型コロナウイルス感染拡大を受け緊急提言を発表(第2次)
- 2021年(令和3年) 3月25日 グループ本社がよみうりランドを株式公開買い付け(TOB)により完全子会社化。基幹7社体制に
- 2021年(令和3年) 4月27日 三井不動産が東京ドームをTOBにより完全子会社化。グループ本社は東京ドーム株式の20%の譲渡を受け、関連会社化
- 2022年(令和4年) 7月20日 **スクープ記事** 「五輪汚職事件」を巡る一連のスクープ(新聞協会賞)
- 2022年(令和4年) 8月 7日 **スクープ記事** 「海外臓器売買・あっせん」を巡る一連のスクープ(新聞協会賞)
- 2023年(令和5年) 3月 日本サッカー協会(JFA)と「JFAナショナルチームパートナー契約(新聞)」を締結
- 2024年(令和6年) 1月 1日 読売行動指針を策定
- 2024年(令和6年) 11月 2日 読売新聞創刊150周年^⑩



本紙創刊150周年ロゴ

最新情報はこちらから
<https://info.yomiuri.co.jp/>

